

島を次々と生み出す地下の火種、ホットスポット (Hotspot)

記事のURL

<https://www.gklibrarykor.com/ja/article/10595/>

PDFレイアウトのプレビュー - 本文の一部のみ

地図でハワイ諸島を見ると、島々が南東から北西へ斜めに一列に並んでいます。さらに不思議なのは、南東端のハワイ島では今も溶岩が流れているのに、北西へ行くほど島が古くなって削られ、ついには海底の山へと沈んでいくという事実です。このように島を次々と生み出す、地下の熱い場所があります。それが「ホットスポット (Hotspot)」です。ホットスポットとは、簡単に言えば、プレートの境界とは関係なく、地下深くの異常に高温なマントルがマグマを供給して火山活動が起こる場所を意味します。ほとんどの火山がプレート同士がぶつかったり離れたりする場所に集まっているのとは違い、ホットスポット火山はプレートのど真ん中にもできるという点が特別です。本記事では、ホットスポットという考え方がどのように生まれたのかから、火山島の列ができる仕組み、地球の代表的なホットスポット、そしてまだ解決していない論争まで、順に見ていきます。プレートの上に火山の足跡を残す地下の火種

ホットスポットという考え方の始まり ホットスポットという概念は、ハワイ諸島の謎を解こうとする試みから始まりました。(1) ツゾー・ウィルソンのアイデア1963年、カナダの地質学者ジョン・ツゾー・ウィルソン (John Tuzo Wilson) は、ハワイ諸島はほとんど動かない熱い場所の上を太平洋プレートがゆっくり通過することでできたと説明しました。プレートは